

臨時農業生産情報

(雷と突風及びひょうに対する技術対策)

令和 7 年 6 月 1 9 日
青森県「農林水産力」強化本部

青森地方気象台発表（2025年6月19日10時25分）「雷と突風及びひょうに関する青森県気象情報 第1号」によると、青森県では、19日夜のはじめ頃にかけて、大気の状態が非常に不安定となる見込みです。竜巻などの激しい突風や落雷、ひょう、急な強い雨に注意してください。

今後の気象情報に十分注意し、次の点に留意して、被害の未然防止と軽減に努めてください。

【事前対策】

1 りんご・特産果樹

- (1) おうとうの雨よけ施設やぶどうのハウス施設、りんごのトレリスなどの破損・倒壊を防ぐため、マイカ線等の締め直しや支柱等による補強を行う。
- (2) りんごのわい化樹や幼木は、支柱への結束状況を点検し、ゆるんでいる場合は再度結束する。

2 野菜・花き・畑作

- (1) ビニールハウスやトンネルでは、倒壊したり被覆資材が飛散しないよう施設等の点検、補修を行うとともに、マイカ線や支柱などで補強する。
- (2) マルチ資材は、飛散しないよう土でしっかり固定する。
- (3) 施設周辺やほ場に排水溝を設け、排水対策に努める。

3 水 稲

4～5 cm程度の適水位を維持しながら排水できるよう、ほ場の排水口で調節するとともに、排水路の点検・整備を徹底する。

4 畜 産

- (1) ロールベールサイレージは、ストレッチフィルムの破損を防ぐため、ブルーシート等で覆う。
- (2) 畜舎等は、破損を防ぐため、支柱等で補強するとともに、シャッターや窓などを完全に閉める。

【事後対策】

1 りんご

- (1) 幼果（果実直径2～3 cmの時）に被害が見られた場合、摘果に当たって、傷が果肉に達しておらず、傷の大きさが爪楊枝の頭の太さ（約2 mm程度）のものは残しながら、花芽形成や樹勢維持のため、できるだけ標準的な着果量を確保する。
- (2) 被害園ではその後の管理を怠ると、来年の生産に影響するので、薬剤散布などの栽培管理は通常どおり行う。

2 ぶどう

- (1) 降ひょうで折れた新梢は切除し、副梢の発生を促し葉枚数の確保に努める。
- (2) 被害新梢から伸長した副梢は、基部から4～5枚目で摘心し、結実確保と枝の充実に努める。
- (3) 被害を受けた花穂でもできるだけ残し、病虫害防除を徹底する。結実が見込めない場合は摘除する。

3 野菜等

降ひょうの被害を受けた場合は、病気が発生しやすくなるので、病気が蔓延しないよう、薬剤を散布する。

4 小麦

倒伏した小麦は、仕分け刈りを行い、未熟粒や被害粒が混入しないようにする。

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(水稲) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ GM 八島 敏行 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ【発行元】 GM 木村 一哉 (りんご・特産果樹・ぶどう) りんご果樹課生産振興グループ GM 工藤 秀樹 (畜産) 畜産課経営支援グループ GM 三村 葉子
電話番号	(水稲) 直通 017-734-9480(内線5073) (野菜・花き) 直通 017-734-9481(内線5076) (りんご・特産果樹) 直通 017-734-9492(内線5146) (畜産) 直通 017-734-9496(内線4814)
報道監	農林水産部 次長 及川 正顕(内線:4966) 次長 栗林 豊 (内線:4967)

青森県では、臨時農業生産情報をパソコンやスマートフォンにメール配信するサービスを実施しています。青森県農業情報のホームページ「農ナビ青森」からお申し込み下さい。

農ナビ青森のHPアドレス

(<https://www.nounavi-aomori.jp/>)

「トップページ」→「農業情報ページ」→「農業情報」
に掲載



農ナビ青森 QRコード